～恩師　種山先生～

佐藤由樹さん
大学 昭和57年卒業

　種山先生との最初の出会いは、垂水学舎の二回生、月曜日1限目ラテン語でした。ちょっとだるい月曜の朝、先生の研究室。まず電気ポットでお湯を沸かし、コーヒーを入れて、それを飲みながら授業が始まったので面喰らいました。更に驚いたのは、先生が入れるインスタントコーヒーの粉の量が半端なく多かったことと、それがえらく美味しかったことです。

　垂水学舎は三回生まででしたが、たまに先生の車サニーで三宮まで送っていただきました。しかし、先生の運転はスリル満点で、三宮に着いた時は本当にほっとしていました。先生は、初めてガソリンスタンドで給油するとき、入るのに右側をこすり、出るのに左側をこすったと、笑いながら教えてくださり、皆で大笑いしました。

　当時、私は、一生独身で職業婦人を目指しており英語を勉強していました。しかし、縁あって現在の夫との交際が始まっており、人生の方向が大きく変わりそうで悩みました。

　親元から離れて大学生活を送っていた私は、先生を神戸のお母さんと思い信頼していたので、先生に彼を見て貰うことにしました。そして合格だったので、四回生の夏休みに婚約しました。

　卒業後も時々連絡をして、岡本や三宮で会っていました。私に息子が生まれた時は、何か買ってあげたいと言われ、ファミリアでクマの耳が付いた洗面器と可愛いタオルをプレゼントされました。小さい子供の物を買ったのは初めてだと喜んでいらした姿を憶えています。

　その後、先生は松蔭から弘前大学へ移られましたが、大変な病気で入院されていることを知りました。当時、震災で故郷の神戸を無くし、その上に先生まで病気で失うかもしれないと思い涙が溢れました。とにかく、先生の声を聴きたいと強く思い電話をしたところ、二人で弘前に遊びにいらっしゃいと誘われ、直ぐ飛んで行きました。

　病気のことはお互い触れず、私たちは紅葉に染まる津軽を満喫しました。帰る時空港で見送ってくださった寂しそうな先生の顔が忘れられません。

　先生がいらっしゃらなくなって久しいですが、私は先生と似ている所が沢山あることに気付き、嬉しく思っています。松蔭で先生に出会えたことは、私の人生の宝です。